

健康に関連する地域の社会関係資本の測定指標の開発

コミュニティにおける信頼や規範、ネットワークなどの関係性の豊かさは、「社会関係資本（ソーシャルキャピタル）」と呼ばれ、健康情報の共有やストレスの軽減などを通じ、地域の健康水準を向上させるのではないかと考えられています。しかし、社会関係資本を測定するための指標・方法が定まっていないことが、知見を蓄積し政策等へ反映させる上での障害となっています。そこで、2013年に全国30市町村で行われた要介護認定を受けていない高齢者123,760人（702小地域）の調査データを用い、健康に関連する地域単位の社会関係資本を測定する指標を開発しました。

53の候補項目群から、地域単位の健康度と一定の関連があり、かつ、統計学的にまとまりのある項目を整理したところ、ボランティアへやスポーツ関係のグループへの参加割合などの「市民参加（Civic participation）」、地域への信頼や愛着の割合などの「社会的凝集性（Social cohesion）」、他者とのサポートの授受割合などの「互酬性（Reciprocity）」と命名できる3因子・11項目が抽出されました。研究上の意義に加え、全国自治体が介護予防にむけて地域特性を診断する際の指標としての活用も期待されます。

本指標は論文として公表されていますので適切に引用して頂ければ、著者に承諾を取る必要はございません。指標の詳細につきましては下記の論文をご参照下さい。ご不明な点がございましたら、齊藤（masa-s@n-fukushi.ac.jp）までお問い合わせ下さい。

（参考）Saito M., Kondo N., Aida J., Kawachi I., Koyama S., Ojima T., Kondo K. (2017) Development of an instrument for community-level health related social capital among Japanese older people: the JAGES project. *Journal of Epidemiology*. 27(5): 221–227